

『まずは気持ちを受け止める』

金融庁総合政策局総務課法令審査室長
高橋 敦子

現在、金融庁で法令の「審査」を行う仕事をしています。法律や政令は内閣法制局が審査をするので、主に下位法令（府省令・告示）の審査を行います。この「審査」とは、法令の新設・改廃にあたり、現行法制との関係、立法内容の妥当性、立法の意図が正確に表現されているか、条文の表現や構成は適当か、用字・用語が正確かといった点を検討する作業です。必要があれば、起案部署に対して案文の修正を指示します。

起案部署と話す際に心掛けている最も重要なことの一つは、（明白な誤りの場合を除き）頭ごなしに否定せずに「なぜこう書いたのか」をよく聞き、その思いや悩みを共有することだと思っています。

一読しただけでは「???」と思っても、背景事情を聞けば、「なるほど、だからこう書いたのか」と起案担当者の悩みを理解することができます。その上で、「こういう理由があったからこの書き方をしたのですね。でも、こう修正すれば、あなたが懸念した点も問題ないし、規定内容がより明確になります」とコメントすれば、起案担当者も指摘を素直に受け止めてくれます。頭ごなしに「内容が不明確なので、こうやって修正してください」とだけ伝えるのとは大違いです。

これは部下とのコミュニケーションでも同様です。何か指摘したり注意したりする前に、まずは一旦、部下の気持ちや悩みを受け止めて、「わかります」と伝える。それだけで、その後のやり取りはずっと建設的なものとなり、信頼関係もできていきます。

さて、私は2歳の男の子の母親でもあります。イヤイヤ期真っ只中。仕事を終えた後、まず、保育園から家に連れて帰るのが最初の難関です。保育園を出て家の方向に歩き始めるやいなや「おうち帰らない！おさんぽ行く！」と道路にひっくり返ります。

どの育児書を見ても、「イヤイヤ期は自我の芽生えであり、大切な成長過程」「まずは気持ちを受け止めて」などと書かれています。つまり、職場でのコミュニケーションと同じように、ひとまず「もっとお外で遊びたいんだね、よくわかるよ」と、気持ちを受け止めて、それを伝えてあげるのが正解なのだそうです。

しかしながら、（あくまで私の場合ですが）この方法でうまくいくことはめったにありません。ここまで偉そうに書いてきましたが、2歳児相手には、おともだち作戦（○○ちゃんもおうち帰るって！）、モノで釣る（おやつあるよ）、実力行使（抱き上げて無理やり連れ帰る）、等々、まだまだ試行錯誤が続いています。